

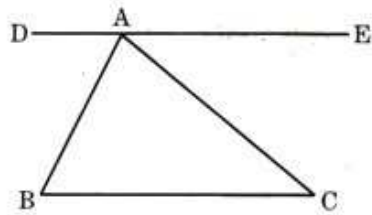
卒論の書き方

1. 形式について

卒論は、中学の時に学習した「図形の証明問題」と同じ構造で作成する。

- ・ 問題設定（序論）
- ・ 論証（本論）
- ・ 結論

2. **[三角形の内角]** 右の図において、 $BC \parallel DE$ である。右の図を用いて、三角形の内角の和が 180° であることを証明する。



[証明]

$BC \parallel DE$ より、錯角が等しいので

$$\angle B = \angle \text{㉞} \dots\dots \text{①}, \quad \angle C = \angle \text{㉟} \dots\dots \text{②}$$

$$\text{①, ②より } \angle A + \angle B + \angle C = \angle \text{㉚}$$

一直線の角の大きさは ㉛ $^\circ$ であるから、

$$\angle A + \angle B + \angle C = \text{㉜} \text{ $^\circ$ }$$

よって、三角形の内角の和は 180° である。

1-1. 問題設定（序論）

序論にて、「この論文は、何を証明するのか（明らかにするのか）」を明記する。

(例) 三角形の内角の和は 180 度であることを証明する。

1-2. 論証（本論）

本論にて、序論で設定した問題を解明するための証拠を示し、論証する。

証拠は、客観的に測定できるものを挙げていく。

(例) 角 $X =$ 角 Y 。

論証では、すでに知られている法則・定理を用いても構いません。

(例) 一直線の角の大きさは～

1-3. 結論

結論にて、論文の結論を示します。その際、序論で示した「証明・明らかにすること」に一致するように書きます。

(例) よって、三角形の内角の和は 180 度である。

2. オリジナリティの出し方

卒論を含めた論文では、オリジナリティがあることが最重要視されます。オリジナリティとは、端的に言えば「まだ明らかになっていなかったことを明らかにする」ことです。よって、もうすでに他の論文で明らかになっていることを、改めて明らかにする必要はありません。

オリジナリティを出すためには、「何がすでに明らかになっているのか」を把握している必要があります。

オリジナリティの出し方は、三種類あります。

- ・ 問題のオリジナリティ
- ・ 論証のオリジナリティ
- ・ 結論のオリジナリティ

2-1. 問題のオリジナリティ

これまで誰も設定していなかった問題を立てること。先行研究の盲点、先行研究がまだ出ていない最新の問題、など。

2-2. 論証のオリジナリティ

これまで一般的に行われていたのとは異なる証拠・論証で議論を行うこと。先行研究にはない別角度からの議論。

2-3. 結論のオリジナリティ

これまで一般的に言われているのとは異なる結論を出すこと。

3. 実践編

「アベノミクスで日本の景気はよくなっているの？」という疑問を解くために卒論を書くことにした。

3-1. 問題の洗い出し

- ・「アベノミクスで日本の景気はよくなっているか？」とは、どういう意味か？
- ・アベノミクスと何か？： 2012年12月に発足した安倍内閣によって実施されている一連の経済政策の総称。別名：三本の矢。具体的には～
- ・景気とは何か？ →景気を言い換えると？： GDP成長率、為替レート、日経平均株価、長期国債利回り、消費者物価指数、可処分所得、失業率、生活保護世帯数…
- ・「よくなっている」とは？： 2つの時点（2012年12月以前と以降）とで上記の数値を比較し、好転していれば、「よくなっている」と言える。
- ・本当に「アベノミクスでよくなっている」のか？： 安倍政権の経済政策ではなく別の要因が影響している可能性（例）2020年東京五輪開催、原油価格の下落、など →「好転している理由はアベノミクスがあったからである」と、どのようにして証明できるか。

→①当初の疑問に答えられるような問題の設定、②言葉の定義、③論証方法、をあらかじめ検討し、それを反映できる章構成を立てる。

3-2. 問題設定（序論）

国民生活の向上を目指すアベノミクスの経済効果について、多様な議論がなされている。このうち筆者は、景気回復を象徴する数値として失業率に注目する。本論文の目的は、アベノミクスが失業率の改善に寄与したことを明らかにすることにある。

序論

第1章 阿部内閣とアベノミクス

第2章 過去10年間の失業率の推移

第3章 阿部内閣と民主党政権期における失業対策の違い

第4章 失業率に影響を与えるアベノミクス以外の要因

結論

3-3. 論証（本論）

- ・問題の明確化： 「景気がよくなるとは、失業率が低下することである」（序論）
- ・アベノミクスとは何かを明確にする（第1章）
- ・アベノミクス以前と以降を比較し、以降の方が改善していることを示す（第2章）
- ・アベノミクスの失業率改善策が、それ以前（の民主党政権）の政策と異なっており、しかも効果的であることを示す（第3章）
- ・アベノミクス以外に失業率に変化を及ぼす要因があったことを示す →その要因以上にアベノミクスの方が効果的であったことを示す

3-4. 結論

- ・アベノミクスによって失業率が改善した。

分析した結果、下記のように、序論の問題設定（証明すること）とは異なる結論が出る可能性がある。

- ・（例）アベノミクスの効果は限定的であり、むしろ他の要因によって失業率が改善した。
- ・（例）2013年以降の失業率改善は、民主党政権の政策が結実した結果である。

その場合は、序論の方を書き換えましょう。